

企業インタビュー

株式会社古川製作所



会社名：株式会社古川製作所

所在地：広島県三原市沼田西町小原200-65

創業：昭和32年（1957年）6月

従業員：272名（2014年4月現在）

事業概要

様々な食品の包装に使われる真空包装機や自動袋詰シール機など、自動化機械の設計から製造、納品後のアフターサービスまでを行う。

ウェブサイトURL：<http://www.furukawa-mfg.co.jp/>

Q.留学生採用のきっかけと背景について教えてください。

弊社は、食品業界において、袋の中に製品を入れてバックをする包装機械の研究開発・設計・製造・販売・メンテナンスをしています。

具体的には、食肉、水産、農産加工品、野菜、惣菜などを取り扱うクライアントと摺合せをして、その情報を基に機械の設計をし、機械の製造・納品を行います。また、導入後もメンテナンス等のアフターサービスを行っています。

弊社の製品は世界54か国に輸出しています。特に米国には3,000台を超える納入実績があり、今後はアジア各国を新たな活躍の場として考えています。

外国人材の採用は、古くから行ってはいましたが、2009年に中国の青島、2013年にタイの現地法人を設立する等弊社の海外拠点の展開に合わせて、外国人採用に力をいれてきました。予さんが入社した2012年から特に力を入れています。

Q.留学生採用と活用の状況について教えてください。

現在弊社には、6名の外国人社員が在籍しています。内訳は、中国の方が3名、インドネシアの方が2名、タイの方が1名です。

外国人材の採用については、2つの考え方があり、ひとつは日本人も外国人も

能力が高ければ採用する国籍不問の考え方です。

もう一つは、将来的に、進出先で活躍してもらえることを想定した採用です。

採用手法については、国内の採用については、広島県留生活躍支援センターの合同企業説明会の参加を始めとして東京・大阪で企業説明会を実施しています。

また、就活ナビの留学生積極採用特集などにも掲載しています。

現在勤務している中国の3名は、国内で留学生を採用しました。インドネシアの方は、現地で面接をして採用しました。タイの方は日本で中途採用しました。

外国人社員の配属先は、1名が設計職、1名が国内営業、3名が海外の貿易事務、1名が製造・組み立てを行っています。

社員教育についても基本的には日本人と同じ内容で行っています。研修ははじめる半年間は、各部門を経験してもらい、1台の機械

がどのような形でできていくのか教育しています。その後、配属先でOJT中心の教育になります。

外国人材を採用した成果としては、我々が知らない現地の食習慣や生活文化を理解しているので、我々が悩んだときには、リアルタイムに現地の声を拾うことができます。

また、海外の貿易事務は、基本的には英語がメインとなりますので、日本人でも英語ができるスタッフはいますが、ネイティブに近い語学力を持つ人材は貴重しています。

Q.留学生の受け入れについて企業として配慮している点等教えてください。

留学生の受け入れに対しては、特別に何かを配慮していることはないのですが、インドネシアの方を雇った際に、宗教的な部分の対応については配慮しました。

イスラム圏の方を初めて採用したので、お祈りには場所を提供し、断食に関しては、無理せずに業務を行うなどの配慮をしました。



株式会社古川製作所
総務部 総務課 副長 山村 憲司さん

留学生の場合、両親の介護などで母国に帰国なども考えられます。

弊社の企業行動宣言として、「私たちは社員を家族とし、ともに学び、実行し、成長します」を掲げているので、できる限りそういった事例に対しても配慮しています。

日本人の海外赴任時にも現地で社員の配偶者をパートで受け入れるなど、社員だけでなく社員の家族に対してもできる限り配慮しています。

Q.キャリアパスや期待する事について教えてください。

留学生を含めた外国人材のキャリアパスとしては、母国の状況をよく理解しているので、弊社の販売する機械、設備が浸透するために情報収集やフィードバックをするなどして、力を発揮してほしいと考えています。

会社としても、今後、海外の販路拡大をしていきますので、それに伴い外国人材の活躍するフィールドは広がるのではないかと考えています。